

カンガルーシップ活動
ネイバーサポートプロジェクト
実施報告書

報告日	平成28年11月1日
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校
PTA会長名	植田博司

実施概要	実施活動名	講演「相手と息をあわすコミュニケーション」(PTA家庭教育学級)
	実施日時	平成28年10月12日
	実施場所	附属坂出小学校体育館
	実施目的	発達障がいのある子も含め、すべての人たちがコミュニケーションを上手にとれるようになるため
	実施内容	講演
	実施方法	授業参観後に講演会を設定した。
	参加人数	400名

報告事項	内容	<p>授業参観後、香川大学教育学部の山神眞一教授による講演会を「相手と息をあわすコミュニケーション」と題して実施した。</p> <p>コミュニケーションをとる上で大切なこと3つ、①気にかける、②眼をかける、③声をかける、を話され、その後はペアでのゲームを通して、その大切さを実感させた。ゲームも多種にわたり、子どもも大人も飽きずに楽しめるものであった。最後にはペアで握手をしたまま、片方が1から3の数字を思い浮かべ、もう片方がそれを当てるゲームを行った。半数以上のペアが正解し大歓声が上がった。</p> <p>親子で眼を合わせる時間は10秒より短い実態も紹介され、家庭でのコミュニケーションへのよいアドバイスとなった。</p>
	結果	<p>参加者は小学校全保護者の希望者、及び、小学校3、4、5、6年の全児童で約400名であった。ゲームを取り入れたわかりやすい話であり、子どもからも保護者からも好評であった。感想の一部を別紙に示す。</p>
	所感	<p>児童、小学校の保護者、教員と多岐にわたりの聴講者であったが、どの立場でも、コミュニケーションをとることは生活の中で欠かせないことであり、誰とでも息を合わせたコミュニケーションをとれるようになりたいという願いはみんなもっている。今回、ゲームを通して学んだ、①気にかける、②眼をかける、③声をかける、を大切にして、発達障害のある子どもとも上手にコミュニケーションをとり、子ども理解を進めていきたい。</p> <p>今回の補助はたいへんありがたいので次年度も継続を希望する。</p>

添付書類

保護者感想、教員感想、児童感想、決算書、領収書



カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

提出日	平成28年11月1日	
学校名	香川大学教育学部附属坂出小学校	
学年	3, 4, 5, 6 年	児童

・3つのことを教えてもらいました。一つ目は気にかけること。二つ目は眼をかけること。三つ目は声をかけることです。ペアで活動したとき息を合わせることはいつもやっているようでとても大切でペアの人と仲良くなれるんだなと思いました。

・最近では、親子で眼を見つめ合う時間が十秒より少ないそうです。なので、これからは、たくさんの友達や家族といっぱいお話しをしたいです。

・山神先生はとてもおもしろくてみんな笑顔になっていました。3つのことを使って毎日先生のように元気にできたらよいと思います。

・わたしが一番印象に残っているのは、最後にした1, 2, 3の数で相手と同じになる活動です。〇〇さんとやって3回とも同じになってびっくりしました。わたしは、いろいろな人ともっと関わりたいと思いました。まだ、話すのが苦手な人もいっぱいお話しをしたいです。

・ペアでジャンケンをして、その後、手を軽くたたいたり、しゃがんだり、いろいろなことをしました。これで相手のことをどれだけ見ているかが分かるので他の友達とやってみたいです。

・人と人のコミュニケーションは大切だなあと感じて、家でも家族にあの運動を教えてやってみました。

・最後のゲームはたくさんの人が3回とも相手と同じでした。少しコミュニケーションをとるだけで変わるんだなあとと思いました。

・眼を見ると、どんなこともちょっぴり分かるかもしれません。そのためには、相手のことも分かる気持ちをもつといいと思います。

・普段あまり話をしない人とペアになって思ったよりも話が盛り上がるが多かったのでよかったです。

・ゲームをしているうちに、始めに言ってくれた①気にかける、②眼をかける、③声をかける、の意味が分かってきました。

・手を使ったり、足を使ったりして体も温まり、集中力もたくさんでできました。また、家や学校で、家族や友達と仲良く、楽しくやりたいです。

・眼にはまなざしや愛情という意味があって、ゲームでも友達の眼を見るようにしました。そうすると、相手の動きとうまく合わせることができました。また、ゲームではペアの友達と向き合ったり、その友達がどう考えているか想像したりしました。

・息を合わせるということは、相手を思いやるだけではなく、自分の気持ちや考えを伝えられないとできないことだな、と思いました。

・今日、先生が教えてくれたゲームを家に帰って、妹や弟たちとやってみました。ルールは理解していても息を合わせるのには時間がかかりました。

・ジャンケンをしてゲームで楽しんでいると自然にコミュニケーションがとれてきて、気を合わせることが簡単になってきました。毎日、友達と話すときも、このように楽しく話したいです。

・私は5年生の子とペアであまりしゃべったこともなく少し緊張しました。でも、最後にやった体を動かす運動ではすべてぴったりと合って学年が違って仲がよくなれることに気付きました。

・山神先生は剣道の達人と聞いてすごいと思いました。気にかける、眼をかける、声をかけるを教えてくださいました。後は、体操や遊びを教えてくださいました。これから活用したいです。

提出日 平成28年11月1日

学校名 香川大学教育学部附属坂出小学校

カンガルーシップ活動 ネイバーサポートプロジェクト 参加感想

・2人ペアとなり、じゃんけんをして、勝ち負けあいこそれぞれのサインを出すゲームを講演の中で行いました。私のペアは仲良しのお友達でしたが、お互いの眼を見て、リズムや呼吸、相手のペースに合わせてようとすることが自然にできたと思います。相手の方と息を合わせコミュニケーションをとるためには、相手を思う心を持ち、気持ちを合わせようとすることが大切だと実感しました。(保護者)

・年頃の子供とコミュニケーションを取る時についついこちらから一方的になりがちですが、先生のゲームで相手を見て感じるコミュニケーションもある事に気づきました。発達障害のある子どもとのコミュニケーションには、欠かせないことだと感じました。(保護者)

・コミュニケーションについてのお話しでしたが、体を動かしながらのお話が子ども達にも分かりやすかったと思います。ペアになった相手と息を合わせるのは、自分勝手では上手くいきません。相手の事を考えるということが、どういう事なのか、体を動かしながら学べたのではないかと思います。体を使ったコミュニケーションは発達障害のある子どもには特に有効だと思います。(保護者)

・初対面の人と話すということはなかなか難しいですが、コミュニケーションをとることで相手に寄り添えるんだと感じました。講演も素晴らしかったですが、先生の話術に吸い込まれ、発達障害のある子も含め皆が、夢中になっている子供達の姿がとても印象的でした。(保護者)

・相手を思いやる「気にかける 眼をかける 声をかける」の三つのポイントが、じゃんけんを使ったゲームで伝わってきました。それは、相手を傷つけずにゲームを楽しむことが、相手を思いやることにつながっていることなのだろうと思います。相手の立場はどのように変わろうとも、三つの「かける」を、まず自分が大切にできるよう、心がけたいと感じました。(保護者)

・子どもから保護者、教員まで、対象が幅広いにもかかわらず、全員が楽しんで息を合わせ体験学習ができた。また、その体験にはどのような意義があるか、どうして楽しめるのかといった説明が合間にあり、心理や運動科学の面で学ぶことも多くあった。(教員)

・簡単なゲームをペアで行う活動を通して、人権を大切にすることが子ども達だけでなく、大人も再確認できる内容であった。終始楽しく話も聴けたし、活動をしたりすることができた。私自身、相手の言動だけでなく、自分自身の言動も意識するだけでなく、心が見えない壁を取り外して接することの大切さも、改めて気付かされた。特別支援の視点に取り入れたい。(教員)

・コミュニケーションの基本を学ばせてもらいました。子どもたちは、最初ペアをつくったときには普段一緒にいないようなペアもあり、少し緊張している様子でしたが、すぐに緊張がほぐれてすごくいい笑顔で活動に取り組んでいました。自分自身も他の先生とペアになり体験しましたが、活動する中で自然と相手のことを考え、相手に合わせようとしていました。普段の生活の中でも子どもが自然と相手に合わせるということができるようになっていけばいいなあとと思っています。また保護者の方もすごく嬉しそうに、少し恥ずかしそうに活動されていたのが印象的でした。貴重なお時間を作っていただいたことで、子どもたちにとって実りある良い時間となりました。ありがとうございました。(教員)

・活動を通して、「目をかける、気にかける、声をかける」ことを子どもたちが実感できたと思います。友達を大切に、仲良く過ごすためのヒントを与えてくださり、今後の学級経営にも生かすことができそうです。保護者の皆さんにも聴いていただくことができたことにより、家庭での子どもたちへの眼差しも変化することが期待できそうです。本当にありがとうございました。(教員)

・「(気)にかける、(眼)をかける、(声)をかける」の()に入る言葉を考えるところから、引きつけられるお話でした。手をつないで相手と眼を合わせ、体を動かしながら、息を合わせることや相手のことを思うことの大切さを実感できる時間となりました。参加者全員が笑顔になる講演は、今回が初めての経験で、とても心に残りました。(教員)

・活動を中心とした講演会で、子どもたちが生き生きと体を動かしながら参加できました。子どもたちが互いに目を見て、笑顔で友達と声をかけ合う姿が印象的でした。授業の中や休み時間に、子どもたちとやり取りする際には、その子のことを気にかけて、眼を見て声をかけられる教師でありたいと感じました。(教員)

・「目をかける，声をかける，気にかける」この言葉は子育てにも通じることだと思います。子ども向けに友達関係で大事な言葉だとお話していただきましたが，私は自分の子育てに置き換えて聞いていました。少しずつ手が離れてきている子育てですが，時間が無いことを理由にせず，我が子に目をかけ，気にかける，声をかけていきたいと思います。(教員)

・楽しいお話と活動で，あっという間に時間が過ぎました。ペア活動では，3年生の面識のない女の子と一緒にしたのですが，手をつないだり視線を合わせたりする中で，すぐに打ち解けることができました。仲のいい友達どうしても，手をつないだり目で会話をしたりする経験はそれほど多くはないと思います。お互いのぬくもりを感じながら活動したことで，自然と心も温まりました。(教員)